

平成 20 年 7 月 23 日

平成 20 年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書
- Science, Technology and Public Engagement of Library Preservation -

筑波大学附属図書館
徳田 聖子

このたび、平成 20 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により British Library および British Library Centre for Conservation 等を訪問したので以下のとおり報告する。

1. 訪問期間

平成 20 年 7 月 13 日(日)～7 月 20 日(日)

2. 訪問先

British Library、British Library Centre for Conservation
Wellcome Library (修復スタジオ見学)
University of London Senate House Library (一般利用者として)
Shepherds Bookbinders Ltd (製本資材店)
Khalili Lecture Theatre (London Rare Book School 公開講座: 版と書物史の講義)
St. Pancras Public Library については訪問時にストライキで閉館しており、見学できなかった。

3. 研修調査内容

- (1) New Methods of Cleaning Surfaces of Books and Paper ワークショップ参加
紙資料、革、パーチメント等の修復時に近年使用されている洗浄剤の調製方法や影響について学習した。また参加者から各国の修復施設等の概要について情報を収集した。
- (2) British Library Centre for Conservation(BLCC・(1)の開催会場)見学
BLCC 設立の経緯や開催事業、展示施設や各設備の機能について説明を受けた。
- (3) Digitizing Projects
BL と Microsoft との提携による 19 世紀刊行物の電子化について調査し、OPAC から電子化済の資料等フルテキストへのアクセスを試みた(平成 20 年 7 月現在、館内アクセスのみ可能)。

4. 調査による成果

上記(1)～(3)の研修調査を通して、(1)により紙媒体資料の保存修復に関する科学的な事項の理解に努め、(3)により電子化による代替資料の提供という側面と、電子化した資料や「ボーンデジタル」資料の提供技術の活用状況を知り、さらに(2)によって資料保存という活動と社会との関わりについて考察する手がかりを得た。今後、訪問で得られた情報を元に文献や E-mail 等による継続調査を行い、また学習した事項について理解を深めたうえで、報告をまとめる予定である。

5. 謝辞

最後に、このような機会をくださいました国立大学図書館協会、ならびに快く送り出してくださった皆様、お世話になりました全ての方々に感謝いたします。